

第 6 期

事 業 報 告 書

自 2024 年 1 月 1 日
至 2024 年 12 月 31 日

公益社団法人スペシャルオリンピックス日本・福岡

基本方針総括

2024 年度は大会、競技会への派遣が活発な年であった。また、2025 年の九州・沖縄ブロック大会を見据え、地区のプログラムの現状を再度総括した。

〔事業〕

●公益目的事業

・知的障がい者のスポーツ活動の充実

大会、競技会の開催が徐々に増加し、招待の案内が多数あった。日頃の練習に目的意識を持って取り組むという好循環が生まれたことは喜ばしいことである。競技レベルの向上だけでなく、参加するための日ごろの準備まで含めた自立を考える契機としたい。ここ数年、ユニファイド活動を推進する動きは世界的なトレンドであるが、地区としてはレクリエーションとしては取り組めても、高いハードルとして残ったままである。地区の実情を踏まえ、できる範囲で取り組みを続け、トラディショナルのチームも構成しつつ競技会への参加機会を増やしたい。

・知的障がい者スポーツ振興のための人材育成

ボランティアの高齢化による相対的なマンパワー不足は変わらず、負荷がかかりながらもボランティア各位の使命感によって活動が維持されている。コーチ研修制度は引続きオンラインでの研修が中心であり、できる範囲で苦手とする層へのサポートを続け、新規申請者、更新申請者も増加した。

・知的障がい者への理解を深めるための広報啓発事業

2024 年度は IT 補助金の交付決定によりホームページリニューアルを行った。寄付のオンライン決済及びオリジナルグッズのネット販売を取り入れている。従来通りオンライン並びに NEWSLETTER 等、紙ベースのツールを併用し活用してゆく。ファミリー委員会では認知度の向上に努力している。引き続き、アスリートの入会者が退会者を上回る状況が続いているのは喜ばしい状況である。また、2024 年度は「博多どんたく港まつり」に加え、支援企業の企業祭に出店する機会を得て活動アピールの機会を増やすことができた。

●収益事業

・物品販売

活動資金調達のために北九州及び福岡でファミリー委員会が中心となりで取り組んでいる。商品の開拓、アスリートの所属する事業所の製品を取り扱うなど、継続した支援につながる販路拡大を図り、2024 年度は新たにカレンダーを制作し販売に載せたことで収益を増加させることができた。

[組織]

●専門委員会活動

- ・計画に基づき、各専門委員会が活動した。委員会により自立的な活動に差がみられるが、できる事を、できる時に、できる人がリーダーシップを取りつつ進めている。人的ネットワークで協力者を増やす努力もしている。

●財務基盤強化

- ・関係者一同が 2023 年度同様、地道な啓発活動を継続することにより寄付や支援者の拡大につなげた。チャリティゴルフ大会実行委員会からのチャリティ、企業から継続的な支援に折あるごとに感謝の意を伝え、可能な限り競技会へ選手団を派遣し、アスリートの経験値を高め成長の様子を発信することで、更に継続した支援へとつなぐことができた。

こうした派遣事業は、設立当初からの努力で目的を持った財源を確保していることで可能であり、それを循環させることが健全な法人運営を行うために必要であり、財務基盤の強化は長期の視点が一層不可欠である。

[経営]

●機構整備

- ・多方面からの協力者の確保

場面に応じて対面とオンラインをバランスよく使い分けることも定着してきたが、一方で時代の求めるスキルは日々進化しており、対応力が必要である。非営利活動におけるマンパワー不足は重い課題であり、継続して確保につなぎたい。

- ・他団体との協働

地区大会、ブロック大会の主催を念頭にこの数年、新しい企業、団体との連携、コロナにより関係性の薄れた企業、団体との再構築を行いつつある。2025 年度の事業に反映させたい。